

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム
第10回記念大会

平成28年12月4日(日)
北海道札幌北高等学校
教諭 加藤 渉

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2016

Today's Menu

学校として取り組みで英語力を伸ばす

1) 指導について

学習到達目標に基づく

授業と評価のフレームワークづくり

2) 生徒への働きかけ

GTEC for STUDENTS等の外部試験の活用と

生徒を焚き付ける仕掛け

3) 学校、教科として取り組み

4) まとめ

授業編：何のための活動か（CAN-DO） 3

コミュ英Ⅱ 描写の活動

STEP 1 Guess It!

Can-do: イラストや写真、あるいはグラフなどを見て、そこが分かる情報や、状況などを描写することができる。



The Phrases you can use

話を始めるとき: Well... / Let's see... / Uh...

意見を言うとき: I can see...
They are ...

あいつちや共感をするとき: Yeah. / You're right.

What can you see in this photo? What are they doing?

Pre-readingの活動

- ①「考える・話す」プロセスによるスキーマの活性化
- ②話すためのClassroom Englishを使用させる工夫
- ③main point理解のためのvocabulary Inputもこのステージの役割
ex) the Nazis / Ghetto / death camp / Jews, etc

STEP 2 Read It through!

コミュ英Ⅱ 内容理解の活動

Can-do: 英検 2級レベルの、まとまりのある説明文の要点を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。

1. Choose the title of the paragraph

- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| (a) Fortunate Children | (e) Separation from Parents | (i) Lists of Children |
| (b) Life in a Jar | (f) Unfamiliar Hero | (j) Escape from Prison |
| (c) Helpless Reunion | (g) Raid by German Police | (k) From Ghetto to Death Camps |
| (d) Could Have Done More | (h) Death Sentence | |

Para 3 () Para 4 () Para 5 ()

While-readingの活動

- ・ passageの大まかな理解 ([Gist question](#))
- ・ TFなどによる内容理解の助け ([Signpost question](#))
- ・ より詳細な内容理解・課題解決等 ([Deeper processing](#))

「読む助け」となる設問作りを！

授業編：何のための活動か（CAN-DO） 5

STEP 8 Retell & Summarize It!

コミュ英Ⅱ 理解したことのアウトプット

Can-Do: 聞いたり読んだりした内容についてやりとりをしたり、要点を自分の言葉で表現することができる。

2. Explain about these two photos. ~本文に基づき、イラストの状況について説明しましょう。

(1)



(1)

Post-readingの活動① [retelling]

- ・ gap fill ・ keyword ・ questions ・ 写真やイラスト
- ・ すべて自分のことばで(発展レベル)

コミュ英Ⅱ 理解したことのアウトプット

3. Summarize the paragraph within 50 words. ~自分の言葉で簡潔に要約してみましょう。

() words

Post-readingの活動② [summary writing]

- ・制限字数の中で、main ideaを整理する
- ・生徒は教科書の転記ではなく、構文を換えたり、短く言い換えたりする必要に迫られる(Fluency first→Accuracy)
- ・書いたものはペアやグループでシェアすることで、他人が表現したものとのギャップによって再インプットの機会へ

STEP 9 Express yourself!

Can-Do: 聞いたり読んだりした内容や日常生活での話題について、自分の気持ちや意見などを表現することができる。

Do you think Irena's action of taking Jewish children from their parents was a right decision? And why?

Post-readingの活動③ [express yourself]

- ・内容について 自分の意見を表現する機会
- ・ペアやグループでの シェア活動、発表 などに加え、生徒同士でコメントを書いて返す活動 にも発展できる

outputには必ずaudienceが存在する!

STEP 5 Debate it!

英語表現Ⅱ 論理的思考トレーニング

Can-Do: 多様な考え方ができる話題について、相手を説得させるために意見を述べ合うことができる。

トピック☛ *When you learn English, which is more effective to use, a paper dictionary or an electronic dictionary?*

例

トピック☛ *When you study, which is more comfortable place to study in, your own room or any place outside your room?*

Debateの活動 [論理的思考]

- ・説得力のある理由や根拠を短時間で考えるトレーニング
- ・相手の主張を聞いてメモし、復唱するトレーニング
- ・相手の主張に対して反論を考えるトレーニング

評価編：観点別・分野別に整理する

評価計画の例

評価方法・評価材料

評価の観点	評価の場面	評価材料・評価分野	評価
意欲・関心・態度	授業内活動	・ペアやグループワークへの参加状況 ・言語活動やドリルなどへの取り組み状況 ・課題の提出状況	観察評価 提出記録
外国語表現の能力	定期考査	英作文に関わる設問	配点 20 点
	スピーキングテスト	タイプ I 【音読・問答・意見】	配点 20 点
外国語理解の能力	定期考査	長文読解に関わる設問	配点 40 点
知識・理解	定期考査	語彙・文法知識に関わる設問	配点 30 点
	小テスト	単語テスト・文法テスト	配点 20 点

定期考査○割十平常点△点からの脱却

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2016

評価編：観点別・分野別に提示する

次の範囲を中心に十分に復習し、テストに備えましょう。

テスト範囲提示例

【コミュニケーション英語Ⅱ】

【評価の観点】	【評価の分野】	【範囲】	【ポイント】
知識・理解(40)	① 発音・アクセント	○教科書 L 4 Life in a Jar L7 iPS cells (第1～5段落) ○総合英語 be p475～536 ○キクタンリーディング WEEK 5～WEEK 8	・教科書やキクタンを中心に正しい発音で何度も本文音読して語彙や重要例文を復習する。 ・選択式、記述式の両方を出題
	② 語彙・文法・語法		
理解の能力(40)	③ 長文読解(2題)		・教科書英文そのものを出題することはないが、内容理解と構文理解(予習シート)をした上で音読を繰り返すことが長文対策となる。テストに限らず日常的にやってもらいたい。
表現の能力(20)	④ 英作文① 英文要約		疑問文やキーワード、イラストといったヒントを使った英文要約について、授業内の活動を振り返っておく。全く同じものは出題しない。
	⑤ 英作文② 意見		教科書本文に関わる話題について自由英作文を出題
【Can-do リスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・英検2級レベルの、まとまりのある説明文の要点を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 ・身近な話題について、日本語の注釈があれば、英字新聞等の記事を読んで理解することができる。 ・聞いたり読んだりした内容についてやりとりをしたり、要点を自分の言葉で表現することができる。 ・イラストや写真、あるいはグラフなどを見て、そこが分かる情報や、状況などを描写することができる。 ・日常生活での話題について、まとまりのある文章を書くことができる。 		

※おなじみの補習テストを計画します。基準点は後日。(大問②より)

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2016

評価編：観点別・分野別に算出する

評価算出の例

	知識理解			理解の能力	表現の能力		合計点数	評価点	評価
	発音・アクセント	文法語法	小テスト	リーディング	ライティング	スピーキング			
配点	10	30	10	40	20	20	130	100	
平均	6.0	18.0	8.3	19.1	7.6	15.8	74.9	57.7	3.6
正解率	60.0	60.1	83.1	47.9	37.8	79.2	57.6	57.7	
最高	9.8	28.3	9.9	37.0	18.5	20.0	123.3	94.9	
最	2.5	8.5	4.4	8.0	1.0	10.0	43.9	33.8	

年間通じて同じ配点であり、観点ごとの算出が可能

6.0	16.0	8.7	12.5	7.8	15.0	65.9	50.7	3
7.0	20.8	9.0	21.0	9.5	12.0	79.2	61.0	4
5.8	13.3	6.6	14.5	4.0	16.0	60.1	46.3	3
3.0	11.0	6.8	16.5	3.3	12.5	53.1	40.9	3
7.3	15.0	8.5	16.3	5.3	17.5	69.7	53.7	3
5.5	14.3	8.7	19.8	5.3	17.5	71.0	54.6	3
8.3	25.0	8.7	28.8	11.0	20.0	101.7	78.3	5
6.5	18.5	8.5	23.3	3.5	15.5	75.8	58.3	4
9.8	27.5	9.3	28.3	17.5	19.0	111.3	85.7	5
7.0	14.0	6.9	12.0	4.8	16.0	60.7	46.7	3

評価編：何の力を測定するか

コミュ英Ⅱ

2. 次の英文を、下記の語句を用いて40～50語で要約しなさい。(4×1)

Can-Do: 聞いたり読んだりした内容についてやりとりをしたり、ヒントがあれば要点を自分の言葉で表現することができる。

※単に抜き出して並べるだけでなく、情報の「つながり」を大切にすること。

Computers have opened a whole new world of possibilities. It is now easier to gain information about the news, sports, weather, and bus timetables. You can even find a job on the Internet. Perhaps most importantly, it is now easier to be connected with one another even if you are on the other side of the globe.

Computers were created to be useful for people. You cannot blame computers for the problems they may have caused. We have to keep in mind that people have a responsibility to use computers properly. If we use computer te
we use it unwisely, it can do great harm.

初見英文のsummary

① gain information ② connected with one another ③ responsibility

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2016

評価編：何の力を測定するか

3. 次のイラストは Steve Jobs がスピーチで彼自身について語った事実に基づくものである。その内容を英語で表現しなさい。(4×2)

コミュ英Ⅱ

※イラストの上に書かれているキーワードを用いること。また主語は“Steve Jobs”とすること。

Can-Do: イラストや写真などを見て、その状況や人物、話の展開などについて簡単に描写することができる。

(1) dropped out / fascinating



(2) Apple company / 30 years old



初見イラストをヒントにしたdescription

コミュ英Ⅱ

4. Steve Jobs がスピーチで語った次の言葉について、賛成できるかできないか、およびその理由を述べなさい。(4×1)

Can-Do: 自分のことや興味・関心のあること、身近なことについてやりとりをしたり、自分の気持ちや意見などを表現することができる。

Your time is limited, so don't waste it living someone else's life. Don't let the noise of others' opinions drown out your own inner voice. And most importantly, have the courage to follow your heart and intuition.

Opinion (授業では扱っていない設問で)

評価編：何の力を測定するか

スピーキングテストの実施
年4回×2種類

観点

①音読3点

②問答3点

③意見4点

2年次コミュ英Ⅱ 第1回 **SPEAKING Test**

タイプI **音読+Q&A** カードC

One part of non-verbal language is natural, so we have little control over it. On the other hand, another part of non-verbal language is learned the same as we learn language. Kids learn from adults or from watching others how to express social messages. Japanese children start bowing before they can hardly speak.

タイプI

【音読・問答・意見】

スピーキングテストの実施
年4回×2種類

観点

①動作描写3点 ②場面描写3点 ③意見4点



タイプⅡ
【描写・意見】

評価編：何の力を測定するか

スピーキングテストの実施
年4回×2種類



タイプⅡ
【描写・意見】

上の図は、ある日椅子をつくろうとした男性についてである。

外部試験編：生徒のモチベーションに活かす結果分析とフィードバックを

多角的な英語力把握

1) GTEC for Students

⇒ 技能別運用能力の絶対量と伸びを分析
“fluency”

2) 進研模試

⇒ 分野別知識・理解の相対的学力を分析
“accuracy”

仕掛け編：様々な英語科による発信の機会

宿泊研修での教科学習会

→英語学習における「基礎・基本」と、
「4技能」を意識させる。⇒最初が肝心

・英語科通信の発行

→定期考査の前後、外部試験の前後を主に活用して、学習への意欲向上を図る

・進研模試およびGTEC返却会

→指導の一本化

・学年全体での学習への働きかけ

→進路、受験指導、学習管理との連動

⇒担任団の強力バックアップ

「学校、教科としての取組」

① 変革が進む学校環境

- ・進学重視型**単位制**の導入
- ・**履修指導**につながる進路シラバス
- ・様々な**研究指定**(北海道レベル／国レベル)
- ・高校**入試**(英数の傾斜／英語による問答)
- ・**2人担任**／**機動力**のある教員集団

② 英語科のチームワーク

- ・**組織化**(4人×3学年)／学年チーフ間**連携**
- ・ワークシート、指導方針の**共有化**
- ・外部検定試験対応へ早期シフト

まとめ(釧路江南高校の英語力向上要因を個人的に分析すると)

- ① 地域および学校環境 伸びしろ
⇒地域2番手進学校、しかし入試学力は…
- ② 進学重視型 単位制 履修選択
⇒前向きな公立・私立3教科型希望者
- ③ これらを踏まえた上の、生徒のモチベーションを向上させる 仕掛け 全体指導
- ④ これらの要因があった上での、効果的 英語学習環境の構築(授業・評価)
- ⑤ 発信役を1人に(指導の 一貫性)

まとめ(釧路江南高校の英語力向上要因を個人的に分析すると)

学習者のモチベーション向上が全て

- ・その時、その時に必要な刺激を与えることが必要
- ・「楽しい」だけでもダメ、「苦しい」だけでもダメ
- ・1人の教員や1つの教科でできることは限られる
- ・英語授業だけの効果ではないことを認識すること
- ・学年の協力体制は？学校全体の気運は？
- ・地域、学校環境に合わせて工夫する必要がある
- ・手法に「万能」はない(学校が変われば作り直し)